

別記様式(第5条関係)

会 議 録 概 要

会 議 名	令和6年度 第1回 総合教育会議
開 催 日 時	令和7年2月18日（火） 午後3時00分開会 午後4時30分閉会
開 催 場 所	庁舎 5 階 5 0 1 会議室
主 宰 者 氏 名	三芳町
出 席 者 氏 名	会長・教育長・教育次長 池上教育長職務代理・細谷教育委員・島田教育委員・多胡教育委員 教育総務課長、教育センター長、こども支援課長、学校教育課学務担当主幹 （発議者） 社会教育課長、学校教育課長
欠 席 者 氏 名	
事 務 局 職 員	政策推進室（室長・政策推進担当主幹・政策推進担当主任）
議 題 1）放課後子ども教室について（社会教育課） 2）学校再編の答申について（学校教育課） 3）藤久保小学校フェンス事故について（報告）（教育総務課） 4）いじめの現状について（報告）（学校教育課）	
会議結果 1）放課後子ども教室について→実施期間、実施内容、運営体制等について承認を得た。 2）学校再編の答申について→学校再編計画の策定を進め、跡地利用について地域の特性を生かした地域活性化に向けたものを検討していく方向で進めるということで答申内容について承認を得た。	
会議経過 別添のとおり	
会議資料 資料1 総合教育会議発議書（放課後子ども教室について） 資料2 放課後子ども教室について 資料3 三芳町放課後子ども教室実施要綱(案) 資料4 総合教育会議発議書（三芳町学校再編等審議会答申及び三芳町学校再編計画策定について） 資料5 学校再編計画策定に向けた方向性 資料6 三芳町立小中学校の再編について（答申） 資料7 三芳町立小中学校の再編について（答申資料編） 資料8 藤久保小学校代替校庭フェンスの安全対策について 資料9 いじめの現状について	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 ・ 結 果

	1 開会 2 あいさつ（会長あいさつ） 3 議事 1）放課後子ども教室 資料1～3に基づき社会教育課より資料の説明を行った
委員	子どもたちの居場所というのは子どもたちが決めることである。それを理解した上で機会を作る。子ども保護者の理解が必要となる。「放課後」と付くと学校活動の一環に見えてしまう。定着のためには名称を変える、Q&Aを作るなどの工夫をした方が良い。
社会教育課長	わかりやすいように案内を作成している。アンケートをとった際も放課後子ども教室とは新しい学童のことかという誤解の意見もあった。きちんと理解されるように進めて行きたい。
委員	特別な支援が必要な子どもの参加にについて何か考えているのか。
社会教育課長	特別支援サポーターに入ってもらったり、現場のスタッフ複数名で対応したりすることを想定している。
委員	学童や子ども食堂、放課後子ども教室、それぞれすみ分けがある中で保護者にそれぞれの施設の目的を周知する必要がある。次年度以降になると思うが、それぞれの施設の連携を強化して行ってほしい。一時的なサポーター、指導者それぞれの教室で様々な事業を行うことで競うように盛り上がって行ってほしい。他校での視察の際の感想は何かあるか。
社会教育課長	ふじみ野市は全国的にも先進的な取組をしている。参加しているスタッフの意識が高く、意欲的。様々な子どものニーズに合わせて対応している。学校との連携が強くてきていることはスタッフも子どもも安心。富士見市は事業を委託している。運営内容もバラエティ豊か。その分多くの方に関わってもらう必要はある。
委員	子どもたちにとって魅力的な場所になるよう頑張ってもらいたい。子どもたちがお互い誘い合って行けるようになれば良い。地域の大勢の方の目が届くような場になれば良いと思う。
委員	コーディネーター、リーダー、サポーターは登録されていると思うが、ボランティアの決定は社会教育課が担うのか。
社会教育課長	コーディネーターと相談した上で社会教育課が決めていく。
委員	淑徳大学とは連携をとっているのか。
社会教育課長	協力いただけるという返事を頂いている。現在曜日別にボランティアに来ている学生や新たな学生に周知して参加してもらうことも予定している。
会長	CFCIの事業でも子どもの居場所は重要になってくる。CFCI実践自治体の町田市や宮城県にも視察に行った。放課後子ども教室が子どもにやさしいまちづくりのメインになっているところもある。今後は新たにプレーパークの事業も行っていく予定。子どもたちが自分らしくいられる環境を整備していきたい。そのためにも委員の声を反映していきたい。 2）学校再編の答申 資料4～7に基づき学校教育課より資料の説明を行った

委員	理想論かもしれないが統廃合後の小学校の跡地は町長部局で世界農業遺産や三富の地割をPRする施設など、地域の発展につながるようなものを作ってもらえると良い。学校が跡形もなくなってしまうと寂しいという声も子ども達からある。
委員	答申については審議会で長期間にわたって議論してきたものだと思う。記載のある4つの条件を深く議論していかなければならないと思う。「4. 終わりに」というところで一定数の現状維持の声もある。再編のスケジュールについては、できるところを着々と進めて行くことが良い。現時点で計画はあるのか。
学校教育課長	保護者や地域の方から意見を聴取し、計画を考えていく必要がある。アンケートなどの調査結果を踏まえながら、学校運営協議会でも説明をしていきたい。
委員	答申の中の条件について、上富小学校から三芳小学校は遠いため、スクールバスは重要になってくる。継続的な配慮検討をお願いしたい。江戸時代から続いていた学校が廃校になってしまうのは大変寂しい。上富地域の人が集う場所が小学校であった。統廃合しても、今後賑わいがある場にしていただきたい。他地域から上富小を見学に来る人も多い。今後も地割見学ができる場であってほしい。スポーツレクリエーションの場として活用したり、校庭は学校開放で使っている面もありスポーツができる場とするなど、有効に活用できるように多くの声を集めてほしい。
委員	建物としては学校としての形を残してほしい。三芳町、上富の歴史を知ることができる遊べる場所で、さらに古い校舎とタッチパネルなどのデジタルの融合といったものも考えてほしい。
委員	上富小学校は小規模学級の良さがあるが、統合することでクラスの人数は多くなってしまう。少人数のクラス編成が導入できるよう統合以降の配慮があるとありがたい。
委員	学校の再利用案として現代アーティストへの場を提供したり、芸術の祭りなどといった催しも良いと思う。
教育長	学校がなくなってしまうことを寂しいと思う人は多いと思う。廃校と跡地利用を併せて進めて行くことで希望が持てる。
会長	町としても真摯に受け止めたい。一部の審議委員から反対意見もあったとのこと、再編計画案についてはそういった声も聴きながら進めて行きたい。また、スマートインターフル化に伴い、道の駅の整備を計画中である。いろいろな構想を詰め込むと予算が高額になってしまう。道の駅の構想の一部を跡地活用によりミュージアムなどの施設を作るのはどうかとも考える。他市町村の施設も参考に進めて行きたい。
	3) 藤久保小フェンス 資料8に基づき教育総務課より資料の説明を行った (意見なし) 4) いじめの現状 資料9に基づき学校教育課より資料の説明を行った
委員	「1人1台端末を使ったいじめ」はどういう意味か。
学校教育課長	端末を使い、意見交換できる機会があるが、その際相手が嫌がる言葉を言ってしまったという事例のことである。

会長	先日、いじめ根絶サミットに参加した。素晴らしい内容であった。町の現状はまだいじめがあるとのことでしっかりした対応が必要である。
教育長	補足だが、令和5年度のいじめ解消率について100%となっている。「3か月見守って何もなかったら解消」ということになる。令和6年度の解消率については現在見守っている途中の件もあるためこのような数値になっている。教員もアンテナを張りなるべく多く認知件数を上げていきたい。
委員	いじめているつもりがなくてもいじめになってしまっている場合もある。相手が嫌がったらやめるという指導やいじめを回避する能力も必要。大人になったときもそういった場面がある。
教育長	コミュニケーションが苦手な子に対してソーシャルスキルを上げる学習も行っている。ノーと言える大切さも伝えているところ。
事務局	4. その他 来年度は四半期に1回で年4回程の開催をしていきたい。 5. 閉会